

プロトコール名		1クールの日数	放射線治療
乳癌 PEMB(6w)+nab-PTX療法		84日	■なし □あり
投与日	薬品名(※赤字は抗がん薬)		
d1,43	① 生食50mL(プライミング用) ② <b>キイトルーダ</b> 400mg + 生食50mL ※インラインフィルターを使用 調製後6時間以内に投与完了 ③ 生食50mL(フラッシュ用) ※ライン交換 要 ④ <b>アブラキサン</b> 100mg/m <sup>2</sup> + 生理食塩水20mL/m <sup>2</sup> インラインフィルター使用不可 最終濃度は5mg/mL 空の生食100mLボトルに入れて払い出し ⑤ 生食50mL(フラッシュ用)		
d8,15,29,36,57,64,71	① 生食50mL(プライミング用) ② <b>アブラキサン</b> 100mg/m <sup>2</sup> + 生理食塩水20mL/m <sup>2</sup> インラインフィルター使用不可 最終濃度は5mg/mL 空の生食100mLボトルに入れて払い出し ③ 生食50mL(フラッシュ用)		
コメント	診療科登録制(リスト参照)		

**プロトコールに関する解説**

本療法は、PD-L1発現陽性の転移・再発または切除不能な局所進行トリプルネガティブ乳癌患者さんに対して行う免疫薬物療法です。

国際共同第Ⅲ相試験(KEYNOTE-355試験)において、パクリタキセルもしくはアルブミン懸濁型パクリタキセルもしくはゲムシタビン及びカルボプラチンのいずれかの抗癌剤だけを投与した場合よりも、免疫チェックポイント阻害剤であるペムブロリズマブと抗癌剤を併用した方が、がんが進行せず安定した状態である期間(無増悪生存期間)を延長することが示されました。副作用には個人差があり、治療開始直後から生じる副作用のほか数ヶ月後に生じるものもあり、併用する抗癌剤によって副作用の出方は若干異なります。副作用の治療のため、ステロイド剤や免疫抑制剤が必要となる場合もあります。自己免疫疾患がある方はこの治療を受けることはできません。(2022.6.1)